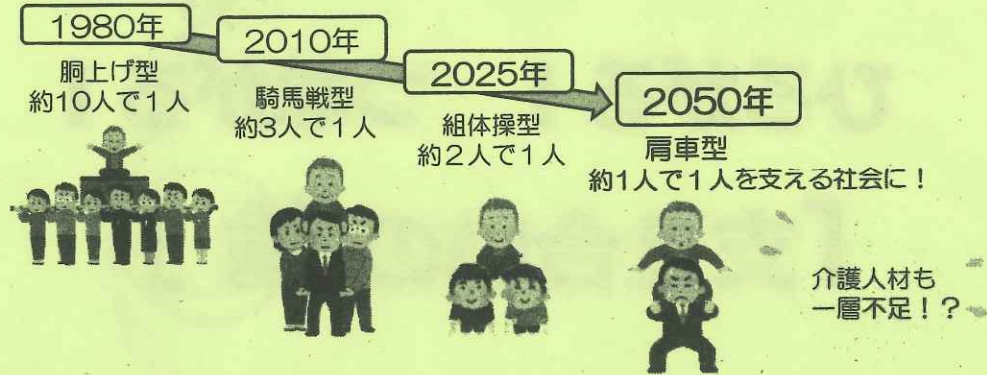


超高齢社会が進みます。

2025年には、団塊の世代が全て75歳以上になり、人口の高齢化がさらに進展していきます。これまでの高齢者支援は、医療や介護等の専門職が主に担ってきました。しかし、今後は若者人口の減少や介護人材不足も深刻であることから、専門職のみに頼るのは難しくなります。



地域全体で支える時代に

～住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで～

これからは専門職のみでなく、地域の様々な人が少しずつ支えるという考え方が重要です。誰でも地域活動やボランティア、ご近所サポート等の場で支える側になりますし、活動することでご自身の介護予防・認知症予防にもつながっていきます。



協議会が各地域で設置され始めています。

協議会とは、地域のことをよく知っている住民や各組織の関係者が一緒になって、日常生活に近い話題を自由に持ち寄り、多様な機関との連携方法を共有する場として市が設置するものです。『地域支え合い協議会』と呼んでいます。



若い人が地域活動に興味を持ってもらうにはどうしたら良いのかしらね。

活動が活発な〇〇町内会を一度見学したいわ。みなさんどうでしょう？

みんなで支える地域づくりへ

生活する上でちょっとした困り事がたくさんあります。みなさんが他人事ではなく、ちょっとしたお手伝いや優しさ、気づかい、それが地域を支える「手」となります。支え合いの「手」が多い地域にしたいですね！！

